

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことば音楽療法教室みそら（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	6年 12月 3日 ～ 6年 12月 17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64人	(回答者数) 62人
○従業者評価実施期間	6年 11月 27日 ～ 6年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 17人
○事業者向け自己評価表作成日	7年 1月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別で言語訓練を行っているので、今必要な支援を行うことができる。	言語訓練と言っても机上の勉強だけではなく、学習の土台でもある身体の基礎作りのために、バランスボールなどの運動器具を使って身体アプローチを行っている。 いろんな楽器を使用することで、足、腕、手先等の粗大運動から微細運動までを音楽に合わせて楽しく取り組めるようにしている。学校の勉強に囚われず、まずはどんな方法でもいいのでコミュニケーションを取り合うことを優先に支援を行っている。	子どもたちの支援に必要なスキルを支援員自身が獲得し、現状で満足することのないように、研修などを積極的に行うようにしている。 プログラムをマンネリ化させないためにも、子ども達が意欲的に参加したくなるような教材開発を常に行うようにしている。
2	17人の支援員がいることで、いろんな分野での個別の支援を行うことができる。	音楽療法・ことば音楽療法・ミュージックケア・楽器演奏などを得意とする支援員がいることで、中学生への支援の幅が広がり、「やりたい」「やってみたい」と向上心を持たせることができ、それをきっかけに言語コミュニケーションを取ることができる。 自閉症児がよく使用する「PECS」を専門に勉強している支援員が複数人いることで、利用者1人に対し、2人の支援員でPECSの支援を行うことができる。	障がい児療育においてはいろんなアプローチの仕方があり、「知らない」では通らないことがあるため、支援員それぞれが学べるように取り組んでいる。 それぞれが学んできたことは、他の支援員にも共有する時間を設けている。
3	保護者と一緒に来所することで、保護者の相談にのることができる。	療育を行う支援員と保護者の話を聞く支援員を配置しているので、保護者からの相談ごとにはすぐに応えられるようにしている。特に進路の相談が多いので、高校はどんなところが良いのか、就労するのが福祉の方に進むのかなどの相談にものれるようにしている。 それぞれの高校の特徴や、就労支援についてなどの福祉の制度についてもお伝えできるようにしている。	私立中学校・私立高校・専修学校・専門学校・大学・公立高校の共生推進、自立訓練・就労移行・就労継続a/b・自立訓練・生活訓練・・・など、その年ごとに変わることが多いので、常に最新の情報を得るようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	40分の個別療育を主にしているので、友達との関り方を学ぶ集団療育がなかなかできない。	祝日や長期休みを使い、3～6人程度の小集団の療育を行うようにしている。夏休みであれば友達と一緒に夏休みの宿題をしたり、ボードゲームを使いSSTを学べる時間を設けている。	個別療育ではあるけれど、待合室（遊びルーム）で利用者同士が会うことが多いので、その時に支援員も間に入り、コミュニケーションがとれるように支援を行うようにする。
2	送迎をしていないので、フルタイムで働かされている保護者は通いにくい。	平日に利用していただけない方には、土日祝に来てもらうようにしている。	親子で一緒に来ていただくことで、保護者にとって子どもを連れてきたメリットを感じてもらえるような療育を行うようにする。 何を聞かれても答えられるように支援員自身が知識を持つようにする。
3	男性の支援員がいない。	男性職員がいないので、小学校の中学年以降の男児にはトイレ介助がし辛いのが、保護者の手を借りて行うようにしている。	男性支援員でなければならないという支援は行わず、それ以外の支援で必要とされるように支援員自身のスキルアップを怠らないようにする。